

島主……かな？

2010.09.02

あと2日間で遠い鹿児島へ。ホストファミリーのお父さんお母さんはどんな人かな。学校は……楽しみ~ もうすぐ島民になります。うれしいな~~^^^^

徐 心致さんの日記

^-^/so happy~——diary long time ago==

2011.06.29

あっという間に、日本での生活は残り二か月になりました。

この約一年間の思い出を軽く整理しても、本当にいろんなことを思い出した。夏、秋、冬、春。季節の変わりとともに、鹿児島って言うもともと全然知らなかった処での生活も大好きになりました、思い出は本当にたっぷり！友達とも、日本の家族とも、仲良くなってきて、すごく感謝したいんです。やっぱり、縁って言うことは不思議だし、奇妙だもんね！

ずっと何も書いてなかった、恥しいなあと思ってるんだ。今日は何か適当に言おう！

昨日お父さんと留学生同士イリーナと一緒に森の中の喫茶店に行って、すごくいい体験だなあと思って、うれしかった。台風のせいで午前中ずっと曇りだったのに、喫茶店についた瞬間、奇跡より奇跡なのは、一瞬に太陽が出てきた。そのきれいな景色は、恍惚となるほど目に飛んできた。洋式の建物を一軒立て、その周りの芝と木は、緑いっぱい。霧は太陽の光を反射して、私たちの髪も赤くなるほど、その明るさは。小さい池の中で蛙はうたてた。一瞬にメルヘンの世界に来たかって思った。

いいところに連れていってくれて、お父さんありがとうよ～～！！：)

これは日本語で投稿されたものです

素敵な町をぶらぶらと

2011.06.29

素敵な町をぶらぶらと

それはよく晴れた日の午後。午前中、ちょっと気分が悪かったので、ずっとベッドで横になっていた。午後、少し良くなったので、さっそくお父さん、お母さんと一緒に庭の掃除を。我が家の庭は広くはないけれど、ありとあらゆる植物が。桜や楓の木、様々な花たち、だれもがうっとりするながめだ。でも葉が落ちる時期は本当に大変。この庭には、一つの生態系がそっくりあるよう。カタツムリや蟻はもちろん、思いがけないところで大っ嫌いな毛虫と「ご対面」してしまうことも。でもこの素晴らしい庭のために、自分も腕まくりをして手袋をはめて、いっしょうけんめい働こぞ。……

庭中の落ち葉はほぼ片付き、時計を見るともう夕方5時。日差しもきつくなくなって、あわてて日焼け止めクリームを塗りたくることもないけれど、この庭にたっていると、何とも言えない満足な気分になってくる。お父さんは犬小屋の掃除をし、お母さんはもう家に入っている。庭からは、お母さんがちょうど冷蔵庫から玉ねぎを取り出し、夕飯の準備をしているのが見えた。ふいに、これからなにをしようかな、と考えて。異国での午後、天気は良好、今夜もお母さんの、おいしい夕食が待っている。宿題もないし、時間に追われることもない。太陽の光が降り注ぎ、これってほぼ理想に近い生活？だから心の中で“毎日が素晴らしいなって”感激している。手袋を取って、自分の部屋にもどって着替えをして、出かける準備を。

鹿児島に来て半年、大きなショッピングモールや有名なところはほぼ見て回ったけれど、実は、家の近くって、まだあまり歩いたことがなくて。カメラを持って、自分の住む街を撮らなきゃ！

私の住んでいるところは、繁華街から離れすぎても近すぎてもなく、住宅がわりと多いところ。学校行き帰りも、そんなに車も通らないし。道を渡るときに車が来ると、制服を着て学生靴をしょって（それにまだ朝食を頬張ってることも）必死に自転車をこいでいる私たちに、必ず車を止めて道をゆずってくれる。自転車で駅まで向かう道の途中には、2階建てや3階建ての家ばかり。みんなこじんまりとした庭があって、夏は様々な花がいつせいに咲いている。夜はとて静かで、時々遠くからバイクのクラクションとエンジン音が聞こえてくるくらい。でもほぼ静寂の世界。おかげで夜はぐっすり眠れる！そんなことを考えながら、家を出た。

JRの線路沿いにまっすぐすすんでいくと、普通の町の風景が続く。どこかの家のすました白い猫が散歩をしている。ほとんど車も通らない道をのんびりと過ぎていき、しっぽをびよんとあげただけで、私には一瞥もくれない。おぼさんがのんびりとの自宅の車庫をあけて、バケツとぞうきんをとりだしている。お天気がいいので、愛車をあらっているのかな。交差点の先のラーメン屋さんにはまだお客がいないみたい。店のドアを大きく開けて、店内はとて静かだ。となりでは、まだ学校に通っていない子供たちがあつまって、自転車を道の脇に止め、みんな、しゃがみこんでいる。どうやらめずらしい虫を見つけて夢中になっているみたい。“ねえ、私も仲間に入れてくれないかな！”なんて、ほほえましい子供たちの後ろ姿にそっと心の中でこえをかけてみたり。

まだまだ童心が残っているんだなって、自覚を。ハハハ。ある家のお庭では青と紫のアジサイが満開。アジサイの花が塀の外までのびている。その家の前を通った時、家の中からロックが聞こえてきた。きっとこの家には、かっこいい男の子か、クールな女の子がいるのかなって、想像したり。どうしても撮りたくなって、満開の花の前で、自分撮り。こっそり撮って、人がいないかキョロキョロしていたらなんだおかしさがこみ上げてきた。公園の横もいくつかすぎたけど、日本って、本当にいたるところにこんな小さい公園がある。公園と言っても、たくさん木があるわけではなくて、滑り台なんかがあったりして、学校から帰った小学生たちがたくさん来て遊んでいる。木の葉の滑り台の上に影を落とし、子供たちの楽しげな声が公園中にあふれている。なんだか満たされた気分になって、これこそが、普通だけれど、ささやかな幸せな日常って言うのかな。

小さい町で、線路に沿って歩いて、あちこち曲がる必要もない。歩いている間ずっと、こんな優しい風景が続いている。ずっと変わらない、幸せがここにはある。